

倉敷市立高等学校教育体制等の整備について

(中間まとめ)

平成28年2月2日

倉敷市立高等学校教育体制等検討委員会

目 次

	ページ
1 はじめに	…… 1
2 倉敷市立高等学校の現状について	…… 2
3 倉敷市立高等学校に求められる教育内容について	…… 2
4 学校再編（統廃合等）について	…… 4
5 今後の協議について	…… 5

1 はじめに

本検討委員会は、平成26年7月14日、貴職から、倉敷市立高等学校における諸課題を整理して、今後の在り方を協議して、本市教育行政上とすべき方策について意見を求めるとの依頼を受けた。

その際、具体的な研究協議の事項として、次の6点が示された。

- (1) 教育的役割に関すること
- (2) 適正な学校数・学校規模等に関すること
- (3) 昼夜、学科、修業年限等の教育課程に関すること
- (4) 将来の県立移管に関すること
- (5) 施設・設備に関すること
- (6) その他必要な事項

本検討委員会では倉敷市立高等学校（全5校すべて定時制）の現状を踏まえつつ、今後の倉敷市立高等学校の望ましい在り方について、次代を担う有為な人材の育成という視点に立ち慎重に協議を重ねてきた。

協議に当たっては、倉敷市立高等学校の現状について十分把握することが必要であることから、倉敷市立高等学校長の委員に意見を聴取したり、各種資料の確認を行ったりした。また、生徒の実態やニーズを確認するために倉敷市立高等学校全生徒を対象としたアンケートを実施し（資料編 p11 参照）、その結果を検討した。さらに、倉敷市立玉島高等学校の施設の状況を見学するとともに、夜間部の授業参観を行って現状の把握に努めた。

次に、倉敷市立高等学校の現状を踏まえた上で協議を進める際、具体的な研究協議事項の6点を「倉敷市立高等学校に求められる教育内容について」と「学校再編（統廃合等）について」を大きな2本の柱として整理し検討を進めた。

倉敷市立高等学校に求められる教育内容については、他県における定時制高等学校の整備状況や倉敷市立高等学校における特徴的な取組を踏まえて、目指す学校像について検討した。

また、学校再編（統廃合等）については、統廃合等に関するシミュレーションをもとに公共交通機関へのアクセスのしやすさなど留意すべき事項等について意見交換を行った。

本検討委員会は、当初、平成27年度末に提言の取りまとめを予定していたが、平成27年6月11日に岡山県高等学校教育研究協議会（以後「高教研」とする）が立ち上げられ、その提言が平成29年12月にまとめられる予定であり、その方向性を踏まえた協議を本検討委員会でも行う必要があることから、今回の報告については中間まとめとし、高教研の協議内容の方向性が定まってから本検討委員会を再開し、最終提言を行うこととした。

今回の中間まとめでは今後も検討を要する課題を含めており、最終的な提言には至っていないが、今日的課題や改善が急がれる教育環境整備については、迅速かつ円滑に対応が図られるよう期待する。

2 倉敷市立高等学校の現状について

かつて定時制高等学校に通学する生徒は、正規の社員として働きながら学ぶ生徒たちであった。しかし、産業構造の変化等により中学校卒業生を正規社員として雇用する企業は減少し続けた。そのこともあり、倉敷市立高等学校に通学する生徒の中で正規社員として働く者は現在いない状態である（資料編 p8 参照）。家計を助けたい等の理由でアルバイトを行っている生徒は、約半数に上るものの（資料編 p8 参照）、アルバイトに携わる時間は、個人によって大きなばらつきがある。

また、いわゆる働く生徒の減少から、多様な特性を持った生徒の受け入れが進んでいる。例えば、小・中学校のときに不登校であった生徒、特別な支援を必要とする生徒、他の高等学校を中途退学した経験を持つ生徒などが在籍しており（資料編 p8 参照）、それぞれの特性に応じた働きかけが教職員に求められるようになってきている。

そのような状況の中、倉敷市立高等学校では生徒一人ひとりを大切にしたい、きめ細かい指導が教職員によってなされており、小・中学校のときに不登校であった生徒のうち高校入学後出席状況等で改善の見られるものが7割程度という高い成果を上げている（資料編 p8 参照）。また、小・中学校段階での学習内容が十分身につけていない生徒に対しても学び直しの時間を設けたり、少人数指導の授業等によって個々の生徒のつまづきを確認しながら授業展開したりすることにより、生徒の学力向上に大きな役割を果たしている。

しかし、多種多様な生徒が混在する中で、倉敷市立高等学校に一旦入学したものの例年1割程度の生徒が中途退学をしてしまう実態があり（資料編 p8 参照）、今後とも、集団生活の中で必要とされる人間関係作りと学ぶ意欲の醸成が大きな課題となっている。

各校の校舎については昭和40年代に建てられたものが多く、老朽化が進んでいる（資料編 p6 参照）。特に玉島高等学校の木造校舎については、抜本的な対策が求められる状況にある。また、精思高等学校には専用の体育館・グラウンドがなく、工業高等学校にも専用のグラウンドがない現状がある（資料編 p6 参照）。

また、各校の設備についても、老朽化が進んでおり、どのように更新していくかが課題となっている。特に工業高等学校においては、機器の購入等に多額の費用がかかることから、最新の工業技術に対応するために機器の更新をどう進めればよいかが大きな課題となっている。

3 倉敷市立高等学校に求められる教育内容について

学校教育法は、高等学校の目的を「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すこと」と規定するとともに、高等学校教育の目標として、「義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者としての必要な資質を養う」こと等を規定している。

この「高等学校の目的」及び「高等学校教育の目標」については、定時制高等学校においても当然目指されているものであり、その実現に注力していかなければならない。倉敷市立高等学校においては多様な生徒の特性も踏まえつつ、以下の点に留意しながら教育活動の充実を図っていく必要がある。

（１）基礎・基本の定着について

主体的に学ぶ意欲を持たせ、思考力・判断力・表現力を育むためには、その基本となる基礎的知識・技能が必要であるが、倉敷市立高等学校には、幅広い学力層の生徒が在籍している実態がある。学力差が大きいこと、つまづいている箇所が個人により違うことなどを考慮すれば、個別の指導が行いやすい少人数授業（ＴＴ※^１を含む）等が効果的と思われる。早期に生徒のつまづきに気づき、着実に学力を身につけさせるための、より効果的な少人数授業の手法等を共有化して実践を深めていくことが望ましい。

（２）基本的生活習慣の定着について

倉敷市立高等学校の中には基本的生活習慣が確立せず、学校生活においても遅刻等を繰り返している生徒がいる。社会的自立を果たすためには基本的な生活習慣を確立することが必要であり、教職員が家庭とも連携を図りながら、細かい生活習慣の乱れを見逃さず、丁寧な声かけをしていくことができる指導体制作りが必要である。また、その際、生徒と教職員とが、顔の見える、緊密な関係を維持しながら、厳しく温かく接していくことができる学校であることが必要である。

（３）社会性の育成について

他者とのコミュニケーションを円滑にし、他者との共同作業ができることは、社会に出て行く上で重要なスキルであり、礼儀指導やソーシャルスキルトレーニング※^２等に取り組むことにより、学校の教育活動全体で社会性を身につけさせる必要がある。

また、倉敷市立高等学校の生徒の中で、自信を持って自分の考えを主張しにくい生徒については、自信を得る体験を積ませることが必要であるので、各教科の授業の中で意見を述べ合う場を設けて他者から認められたり、学校行事の中で自己の役割を果たし集団に寄与したという意識を持たせたりすることを意図的に行うことが重要である。

（４）特別支援教育の充実について

誰にとっても分かりやすい授業を目指すという観点から、授業のユニバーサルデザイン化※^３が、すでに多くの学校で導入されている。今後とも効果的な手法等を共有化して実践を深めていくことが望ましい。

また、特別な支援を要する生徒については、スクールカウンセラー※^４やスクールソーシャルワーカー※^５、外部の専門機関等との連携を図り、本人の困り感に共感しつつ、学習活動がスムーズに展開できるよう教育環境を整えたり、具体的な助言を与えたりしていくことが重要だと思われる。

（５）進路保障について

コミュニケーション力や就業意識に課題があるため、倉敷市立高等学校では例年、進路を決定することができないまま高校を卒業している生徒や一旦就職しても早期に離職してしまう卒業生がいる。自己の職業適性を把握し就業に対する意識や能力を高めるためには、就業体験を教育課程に計画的に位置づけるなど、早い段階からキャリア教育の充実を図っていくことが重要だと思われる。

（６）その他（今日的課題や今後検討を要するもの）

- ①公職選挙法改正に伴う主権者教育の充実
- ②障害者差別解消法施行に伴う「合理的配慮」への対応※^６
- ③地域産業を担う人材の育成に適した教育課程の研究
- ④定時制高等学校におけるアクティブラーニング※^７の望ましい在り方

4 学校再編（統廃合等）について

全国的に見ても1市で5校の定時制高等学校を設置する市は少なく、人口当たりの高等学校設置数は全国の市の中でもトップレベルの数値である（資料編 p7 参照）。しかし、倉敷市立高等学校は定員が充足していない状況にあり（資料編 p6 参照）、倉敷市内の中学校卒業生の人数も増減を繰り返しながら、今後減少に向かうことが想定されるため（資料編 p9 参照）、統廃合等も含めて倉敷市立高等学校の在り方を検討していく必要がある。その際、以下の点について留意していく必要があると思われる。

（1）岡山県教育委員会との調整・連携について

現在、岡山県教育委員会では、岡山県高等学校教育の一層の充実を図るため、高教研を立ち上げて協議を進めているが、その議論を踏まえた協議を本検討委員会でも行う必要がある。

また、岡山県教育委員会は平成25年2月に策定した「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」の中で「市立定時制高等学校設置者と連携を図り、定時制教育の充実とともに、将来的な課題である県立移管について検討する。」「県南部の定時制高等学校の在り方、教育の充実に向けた検討を進める。」と明記しており、倉敷市教育委員会は岡山県教育委員会との連携を図ることにより、定時制教育の充実や県立移管等についての検討を進めることが重要である。

広島市においては、広島県と共同して定時制・通信制高校の再編・整備を進めており、倉敷市においても従来の発想にとらわれず、県と市とが共同して定時制高等学校に学ぶ生徒の教育環境を整備する等の方策も模索するべきである。

（2）様々な学校再編（統廃合）の態様について

学校再編（統廃合）に当たっては、他県の情報等も収集しつつ、効率的な教育体制の整備が図れるように、様々な態様について検討をするべきである。例えば、全日制高等学校に夜間部の定時制を併置したり、定時制高等学校に通信制を併置したりすることの可能性についても今後検討していくべきである。

（3）倉敷翔南高等学校と真備陵南高等学校について

倉敷翔南高等学校は、児島第一高等学校（全日制・定時制）と児島高等学校（定時制）、南海高等学校（定時制）の市立高等学校を再編統合して平成15年に設置された定時制総合学科の高等学校である。4系列を設けた特色あるカリキュラムにより、地域からも高い評価を得ている。

真備陵南高等学校は、旧真備町との市町村合併により、平成17年に倉敷市立となった定時制普通科の高等学校である。井原鉄道の吉備真備駅から徒歩5分の位置にあり、公共交通機関を利用して広範囲から通学生を集めている（資料編 p10 参照）。また、普通科でありながら、農業・商業・家庭の専門科目が学べる特色あるカリキュラムを設けている。真備地区に1校しかない高等学校として、地域の諸活動にも積極的に関わっており、地域との結びつきの強い学校である。

この2校については、その地域性や学科の特色等から、単独で存続することが適当である。

5 今後の協議について

岡山県高等学校教育研究協議会の協議が進み、その協議内容の方向性が固まってきた段階で本検討委員会を再開する。それまでは本検討委員会は休会とするが、休会中は、倉敷市教育委員会が岡山県教育委員会と連絡を密にとり、定時制高等学校の整備について情報交換を進めることを要望する。

また、倉敷市立高等学校の現状から、多様な個性や価値観を有する全ての生徒に対して、自己の成長を実感でき、豊かな知性・感性を身につけることができる教育環境を整備することが望まれている。

本検討委員会の再開後の協議においては、今までの協議を踏まえつつ、生徒や保護者、地域のニーズに応え、全国にその教育成果を発信することができるような「倉敷市ならではの高等学校」の整備に向けて研究・検討をさらに深めて提言をとりまとめることとする。

- ※１： 「ＴＴ（ティーム・ティーチング）」とは、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のことである。単に同じ場所に複数の教員が配置されているということではなく、チームの教員一人一人が分担する役割をしっかりと果たすことで成り立つ指導形態である。
- ※２： 「ソーシャルスキル」とは、対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能（スキル）のことであり、その技能を習得する練習のことを「ソーシャルスキルトレーニング」と言う。
- ※３： 「授業のユニバーサルデザイン化」とは、誰にとってもわかりやすい授業づくりのことである。例えば、図表を使ったり、ＩＣＴ機器を活用したりすることでわかりやすくする工夫などがこれにあたる。
- ※４： 「スクールカウンセラー」とは、学校に配置され、生徒の生活上の問題や悩みの相談に応じるとともに、教師や保護者に対して指導・助言を行う専門家のことである。多くの場合、臨床心理士があてられている。略称はＳＣ。
- ※５： 「スクールソーシャルワーカー」とは、生徒の家庭環境による問題に対処するため、児童相談所と連携したり、教員を支援したりする福祉の専門家である。多くの場合、社会福祉士や精神保健福祉士などの資格が必要とされる。
- ※６： 「合理的配慮」とは、障害者から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合の、負担になり過ぎない範囲の、社会的障壁を取り除くために必要な便宜のことである。
- ※７： 「アクティブラーニング」とは、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習・指導方法であり、具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどの活用が例として挙げられている。中央教育審議会が学習指導要領の全面改訂で導入を検討している。

資 料 編

	ページ
1 倉敷市立高等学校の概要	…6
2 人口10万人当たりの市立高等学校数	…7
3 倉敷市立高等学校 生徒の状況（5校全体）	…8
4 倉敷市立高等学校 在校生徒数の推移	…9
5 倉敷市内中学校卒業生徒数 見込み	…9
6 倉敷市立高等学校志願者及び入学者の出身地区	…10
7 倉敷市立高等学校生徒対象アンケート結果	…11

1 倉敷市立高等学校の概要

高等学校名 (所在地)	学科	昼間部 夜間部	修業 年限	学期	募集 人員	H27.5.1 生徒数	学校施設
精 思 高等学校 〒710-0816 八王寺町199-3	普通	夜間部	4 年 以上	3	80	69	昭和46年 校舎竣工 体育館はない。西中学校のものを借用。 運動場はない。西中学校のものを借用。
	商業	夜間部	4 年 以上	3	40	35	
工 業 高等学校 〒710-0831 田ノ上716-1	機械	夜間部	4 年 以上	3	80	44	昭和43年 校舎竣工 体育館（講堂）435㎡ 運動場はない。倉敷工業高校のものを借用。
	電気	夜間部	4 年 以上	3	40	35	
倉敷翔南高等学校 〒711-0937 児島稗田町160	総合	昼間部	3 年 以上	2	95	277	昭和41年 校舎竣工 平成16年 実験実習棟竣工 体育館1,329㎡（昭和46年竣工） 運動場13,335㎡
		夜間部	3 年 以上		25	48	
玉 島 高等学校 〒713-8102 玉島1-15-60	普通	昼間部	3 年 以上	3	80	78	昭和23年 滝沢鉄工所旧青年学校舎（木造）を 買収・模様替えし校舎とする 平成元年 会議室竣工 体育館1,121㎡（昭和48年竣工） 運動場4,254㎡
	商業	夜間部	3 年 以上	3	80	41	
真備陵南高等学校 〒710-1301 真備町箭田1769-1	普通	昼間部	3 年 以上	3	40	95	平成4年 校舎竣工 平成16年 プレハブ東校舎完成 体育館866㎡（平成20年竣工） 運動場6,800㎡
		昼間部	4 年 以上		40	91	

2 人口10万人当たりの市立高等学校数

No.	中核市		人 口	市立 高校 数	人口10万人 当たり市立 高校数
1	兵庫県	尼崎市	465,236	5	1.07
2	岡山県	倉敷市	483,722	5	1.03
3	福岡県	久留米市	306,173	2	0.65
4	秋田県	秋田市	319,084	2	0.63
5	兵庫県	姫路市	543,083	3	0.55
6	鹿児島県	鹿児島市	608,240	3	0.49
7	兵庫県	西宮市	483,455	2	0.41
8	北海道	函館市	271,479	1	0.37
9	山口県	下関市	275,242	1	0.36
10	岩手県	盛岡市	295,170	1	0.34
11	高知県	高知市	337,412	1	0.3
12	埼玉県	川越市	349,378	1	0.29
13	群馬県	前橋市	339,956	1	0.29
14	和歌山県	和歌山市	377,208	1	0.27
15	群馬県	高崎市	375,341	1	0.27
16	奈良県	奈良市	363,756	1	0.27
17	長野県	長野市	384,428	1	0.26
18	愛知県	豊橋市	378,890	1	0.26
19	千葉県	柏市	406,281	1	0.25
20	神奈川県	横須賀市	418,277	1	0.24
21	岐阜県	岐阜市	415,520	1	0.24
22	長崎県	長崎市	436,576	1	0.23
23	香川県	高松市	429,276	1	0.23
24	石川県	金沢市	453,081	1	0.22
25	広島県	福山市	472,354	1	0.21
26	大阪府	東大阪市	498,814	1	0.2
27	千葉県	船橋市	622,988	1	0.16
28	東京都	八王子市	562,572	0	0
29	栃木県	宇都宮市	520,462	0	0
30	愛媛県	松山市	517,462	0	0
31	大分県	大分市	478,792	0	0
32	愛知県	豊田市	421,701	0	0
33	富山県	富山市	419,849	0	0
34	大阪府	枚方市	407,528	0	0
35	宮崎県	宮崎市	405,750	0	0
36	大阪府	豊中市	401,007	0	0
37	愛知県	岡崎市	380,537	0	0
38	大阪府	高槻市	355,515	0	0
39	北海道	旭川市	347,207	0	0
40	滋賀県	大津市	342,832	0	0
41	福島県	いわき市	333,802	0	0
42	埼玉県	越谷市	333,736	0	0
43	福島県	郡山市	326,808	0	0
44	沖縄県	那覇市	323,184	0	0
45	青森県	青森市	295,898	0	0

No.	政令指定都市		人 口	市立 高校 数	人口10万人 当たり市立 高校数
1	大阪府	大阪市	2,670,766	20	0.75
2	広島県	広島市	1,188,398	8	0.67
3	京都府	京都市	1,419,474	9	0.63
4	愛知県	名古屋市	2,260,440	14	0.62
5	兵庫県	神戸市	1,550,831	9	0.58
6	北海道	札幌市	1,936,016	8	0.41
7	宮城県	仙台市	1,053,509	4	0.38
8	神奈川県	川崎市	1,445,484	5	0.35
9	埼玉県	さいたま市	1,260,879	4	0.32
10	静岡県	静岡市	715,752	2	0.28
11	福岡県	福岡市	1,486,314	4	0.27
12	熊本県	熊本市	734,917	2	0.27
13	新潟県	新潟市	804,413	2	0.25
14	神奈川県	横浜市	3,722,250	9	0.24
15	千葉県	千葉市	962,376	2	0.21
16	岡山県	岡山市	706,027	1	0.14
17	大阪府	堺市	847,719	1	0.12
18	静岡県	浜松市	810,317	1	0.12
19	福岡県	北九州市	976,925	1	0.1
20	神奈川県	相模原市	715,145	0	0

※市立高校数

『全国学校総覧2015年版』原書房（2014.12.10発行）

2014.5.1現在のデータ。

全日制・定時制の併設校は1校として数えている。

※各市の人口

H27.01.01現在の住民基本台帳による。総務省HPより。

3 倉敷市立高等学校 生徒の状況（5校全体）

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
5月1日現在在籍生徒数	1,019	1,018	961	906	846	813
高等学校中途退学経験者	6.6%	6.7%	6.0%	5.8%	6.0%	5.3%
中学校卒業年の高校入学者(新中卒者)	92.1%	90.8%	91.5%	92.5%	92.2%	91.5%
小・中学校において、年間30日以上 の欠席がある者	32.4%	35.5%	32.8%	27.2%	29.9%	30.9%
高等学校入学により、出席状況 や学習状況等について改善 が見られる者	79.4%	80.1%	77.5%	77.6%	69.6%	73.3%

就労状況(定職)	14人	9人	7人	2人	0人	0人
就労状況(アルバイト)	40.2%	41.7%	43.7%	40.0%	48.7%	49.1%
部活動への参加	36.3%	37.6%	35.1%	37.3%	36.2%	36.5%

退学者数	8.9%	9.8%	10.9%	9.6%	9.6%
------	------	------	-------	------	------

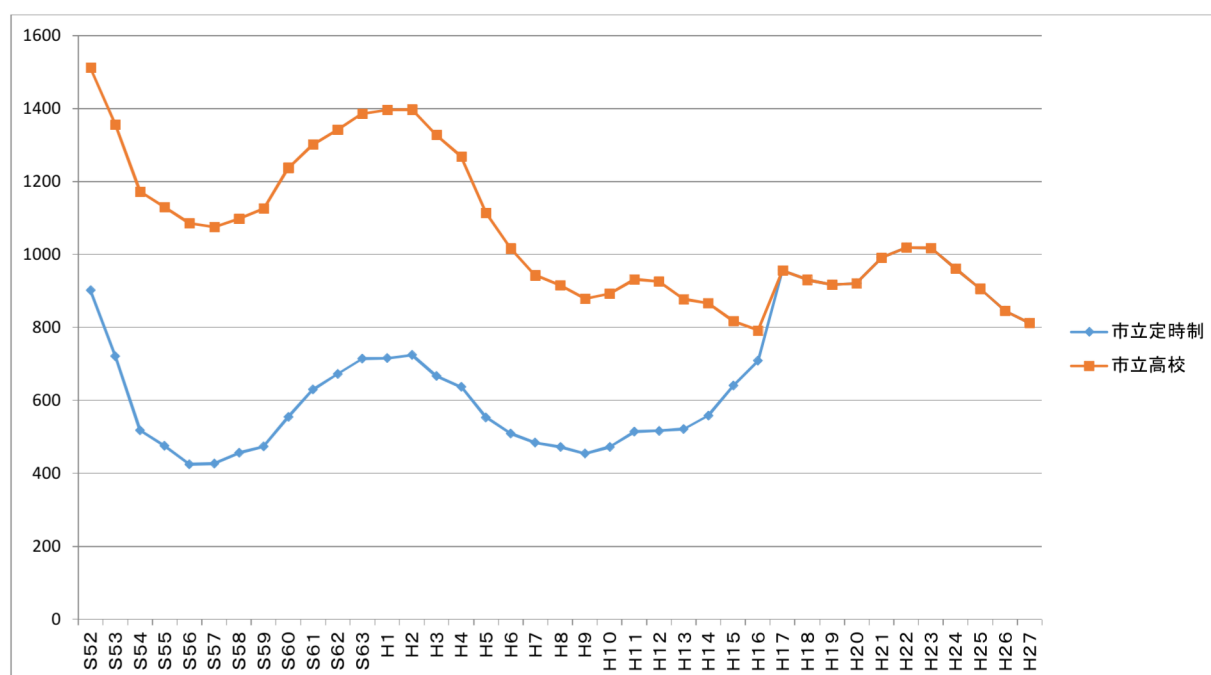
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
特別な支援を必要とする生徒	24.5%		29.6%		38.6%	

※H23・H25・H27は調査を実施していない。

卒業生の進路

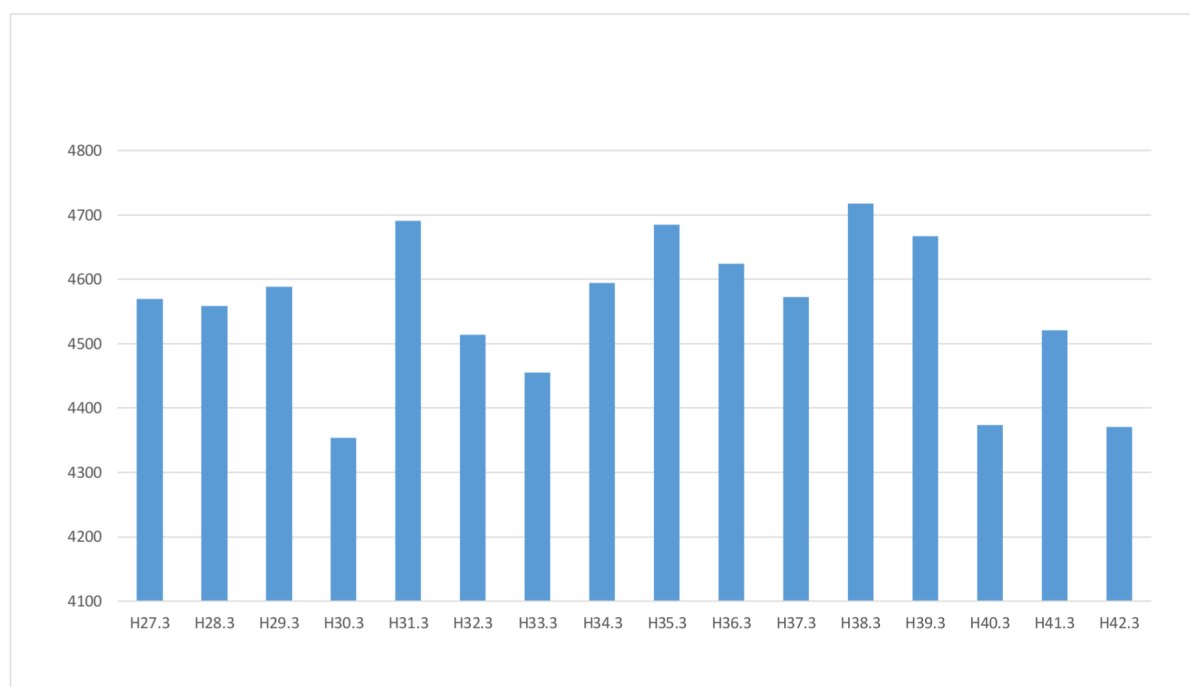
	H22	H23	H24	H25	H26
大学への進学	11.2%	6.6%	7.2%	6.6%	6.0%
専修学校等への進学	23.4%	27.4%	23.1%	22.3%	19.6%
就 職	36.9%	43.1%	43.8%	43.4%	47.7%
アルバイト	19.6%	11.7%	15.1%	12.4%	16.1%
そ の 他	8.9%	11.3%	10.8%	15.3%	10.6%

4 倉敷市立高等学校 在校生徒数の推移

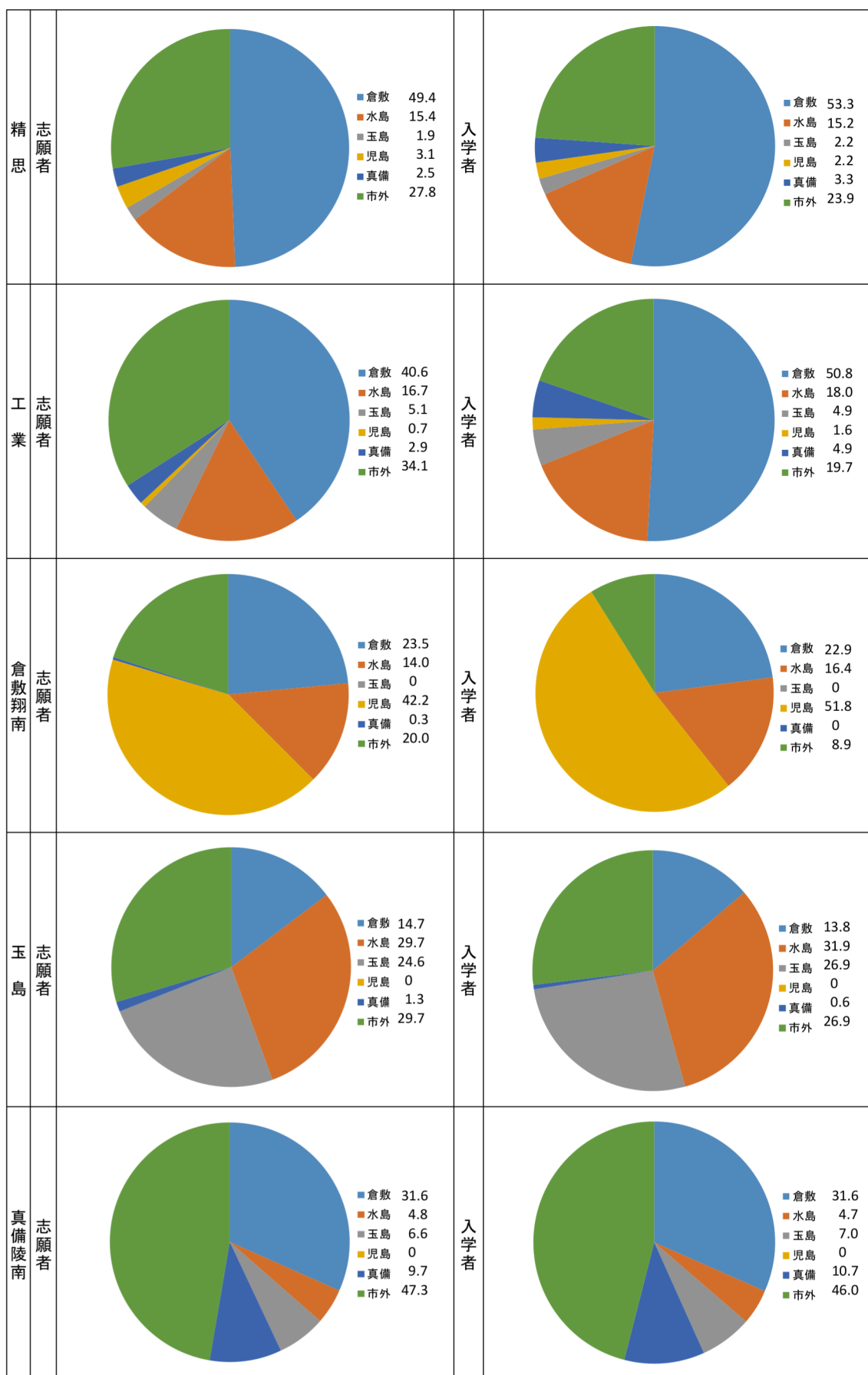


- ①平成15年度 倉敷翔南高等学校開校。全日制の児島第一高等学校募集停止。
 ②平成17年度 市町村合併により、真備陵南高等学校が加わる。

5 倉敷市内中学校卒業生徒数 見込み



6 倉敷市立高等学校志願者及び入学者の出身地区

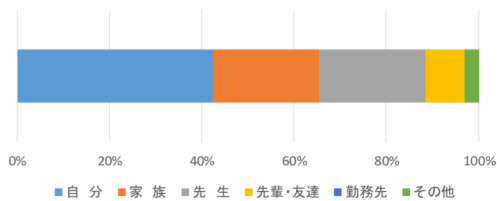


7 倉敷市立高等学校生徒対象アンケート結果

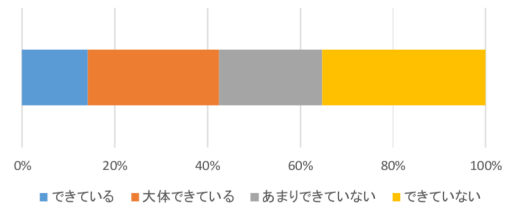
●倉敷市立高等学校在籍数813名中749名の回答

●【複数回答可】については、回答総数を100%としてグラフ化している。

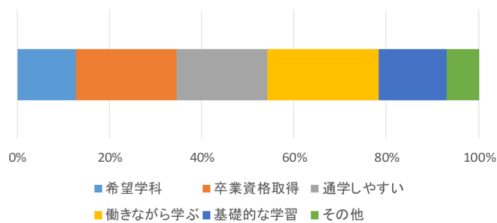
Q1 入学をどのようにして決めたか
【複数回答可】



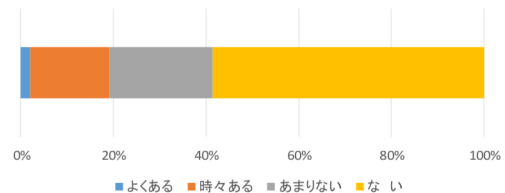
Q5 家庭での学習は落ち着いてできるか



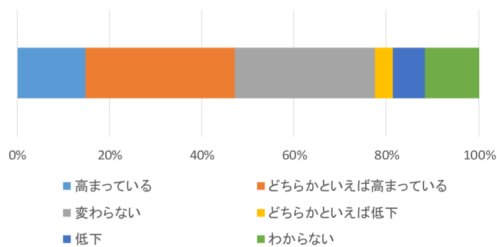
Q2 入学した理由【複数回答可】



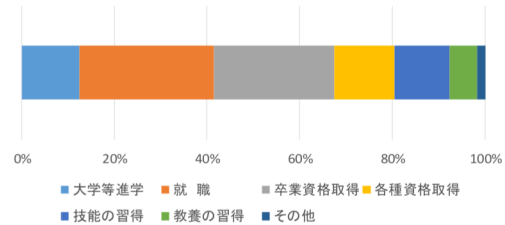
Q6 学校以外で友達と宿題や予習をすることがあるか



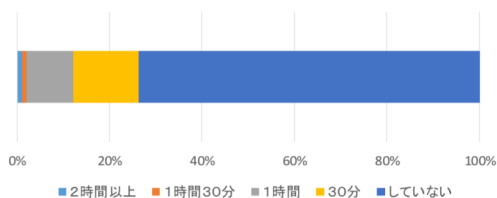
Q3 学習に対する意欲



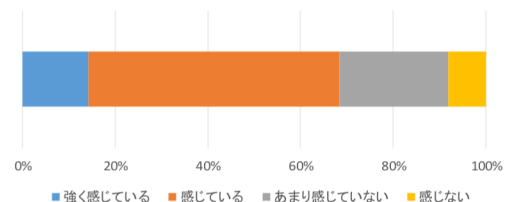
Q7 学習している目的【複数回答可】



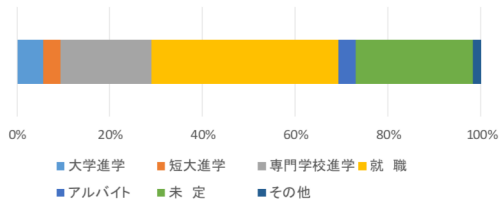
Q4 家庭での学習時間



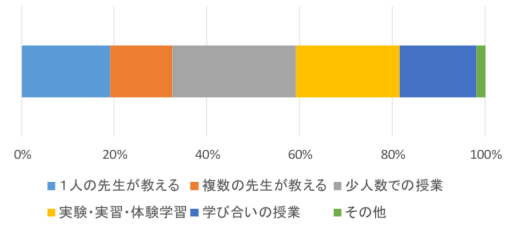
Q8 充実感や満足感を感じているか



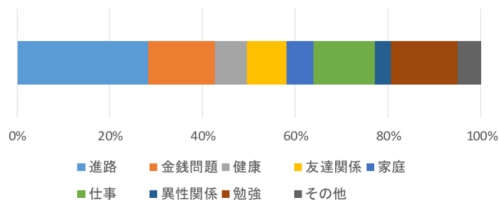
Q9 卒業後の進路をどう考えているか



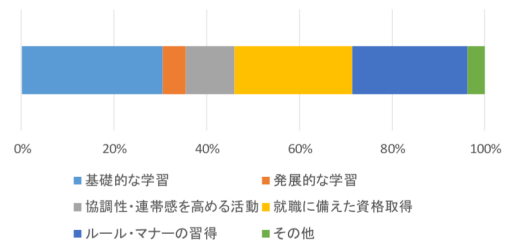
Q14 学びやすい授業は？【複数回答可】



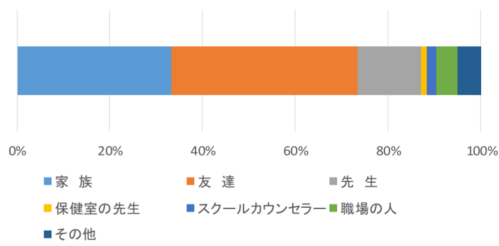
Q10 現在の悩みは【複数回答可】



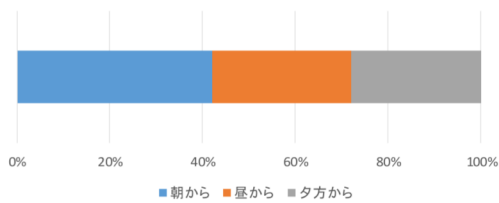
Q15 市立高校に求めること【複数回答可】



Q11 悩みを相談できる人【複数回答可】



Q12 始業時間はいつからがよいか



Q13 1クラスの希望人数は

